

伊万里商工会議所景況調査アンケート

調査報告書

令和7年10月

伊万里商工会議所

先般実施しました「伊万里商工会議所景況調査アンケート」の集計結果を報告します。

本調査は、景気の現況と先行きの見通しについて伊万里商工会議所会員事業所の皆様方のご協力により、今年度も年2回実施を予定しております。今回の調査は上期（令和7年4月～令和7年9月）の現況と下期（令和7年10月～令和8年3月）の先行き見通しとなります。

上期の売上・生産額等の現況は、前年比で増加～横ばいの割合が7割強で、下期見込は上期と比べ増加～横ばいの割合は7割弱になる見込みです。

下期の自社景況感については、上昇との回答割合から下降との回答割合を引いた数字：D Iは、上期比で-15.52（前回4月調査時-37.59）と改善する予想となりました。

詳細につきましては、以降の個別事項をご参照頂きますようお願い致します。

なお、本調査にご協力いただきました皆様方に深く御礼を申し上げますとともに、本調査報告書を景気の指標並びに経営の資料としてご活用頂きますようお願い申し上げます。

### 調査の概要

調査の名称	伊万里商工会議所景況調査アンケート
調査期間	令和7年10月1日～10月14日（配布～回収期間）
調査方法	伊万里商工会議所の職員訪問による調査依頼と説明を行い自主記入により後日回収（一部は調査依頼時にヒアリング記入した）
集計・分析	伊万里商工会議所において集計・分析を行った
調査対象企業	150事業所（会員数事業所1, 302事業者との内、所属部会毎に抽出）
調査回答企業	150事業所（内訳は以下の通り）

所属部会	業種	調査企業数
商業（42）	小売業	30
	卸売業	5
	食品製造業	7
工業（15）	電気・機械等製造業	12
	繊維製品製造業	1
	印刷業	2
建設（36）	総合工事業	14
	職別・設備工事業	15
	建築資材販売業	7
窯業（12）	陶磁器製造業	11
	生地製造業	1
金融理財（7）	金融業	3
	保険業	4
運輸・観光（15）	運輸・自動車運送業	5
	旅館・飲食業	10
サービス業（23）	自動車整備業	4
	諸サービス業	12
	理容・美容業	7
合計		150

※ 建築設計サービス業は建設部会総合工事業へ算入、卸・小売業のうち建設資材に関する業種は建設部会建築資材販売業へ算入

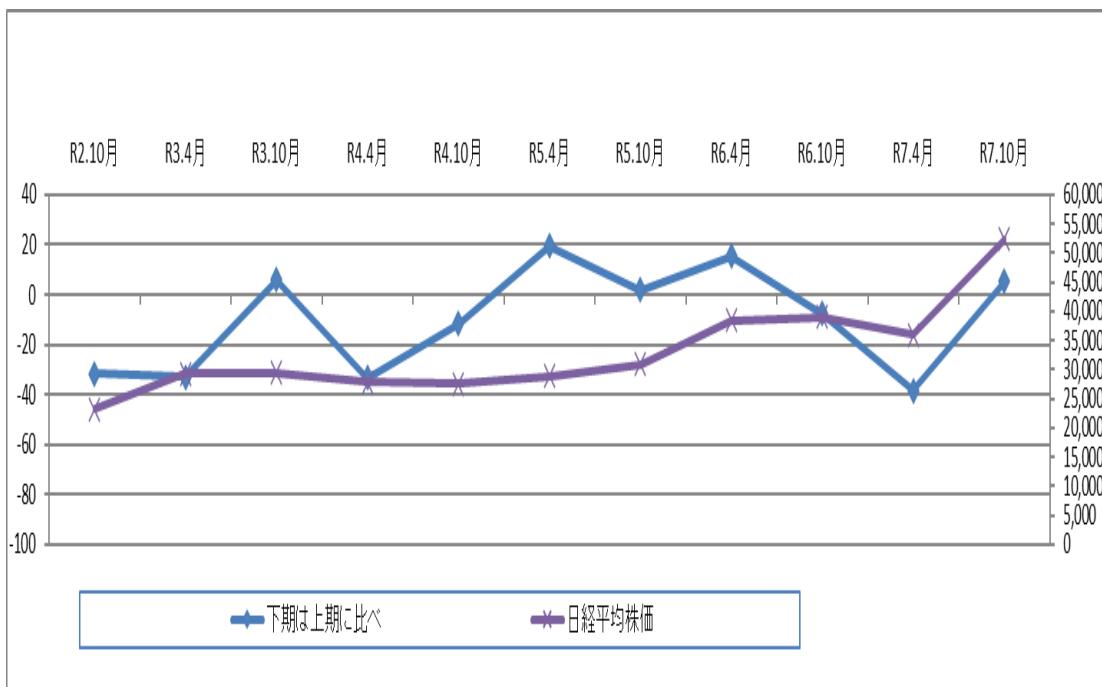
今回の調査による伊万里市内の中企業等の景況感や現況等を次の通りまとめました。

### 【景況感】

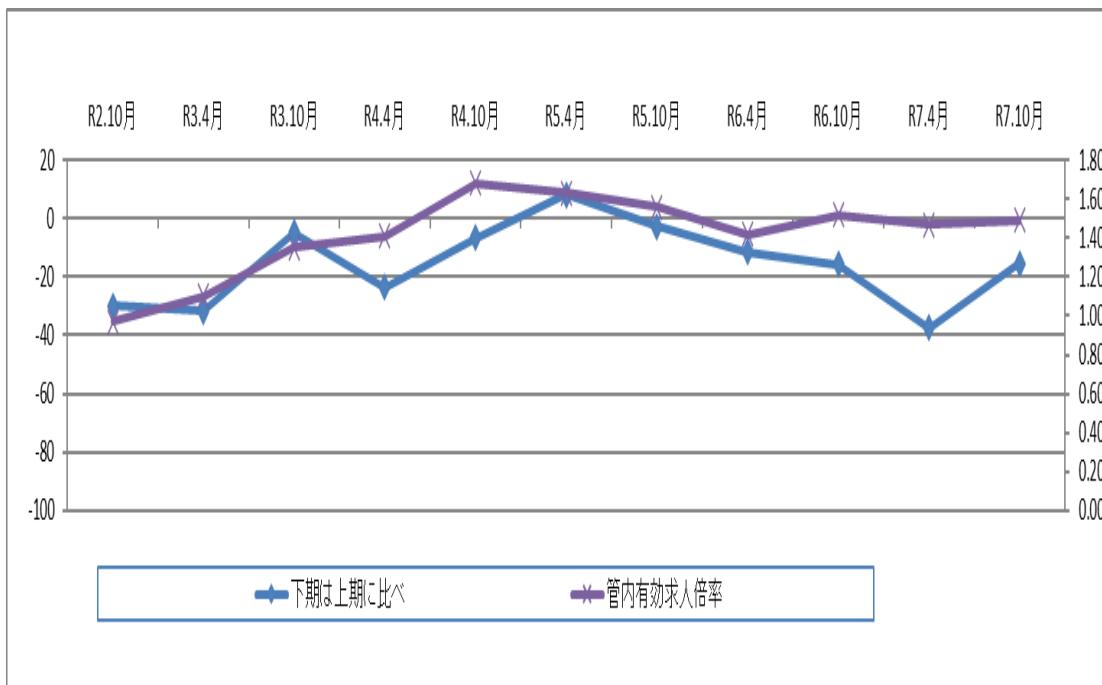
下期（令和7年10月～令和8年3月）の見通しでは、上昇との回答割合から下降との回答割合を引いた数字：D Iは、上期（令和7年4月～令和7年9月）に比べ国内見通しで5.33（前回4月調査時-38.26）と大幅な改善に転じる予想となりました。自社見通しでも-15.52（前回4月調査時-37.59）となり、自社景気についても前回調査と比べて改善の予想の結果となりました。

改善の予想の結果となったものの、慢性的な人手不足や仕入単価・人件費の上昇分を価格転嫁出来ず、利益を圧迫している状況が続いているおり、回復にはまだ時間がかかる予想となりました。

#### 国内D I



#### 自社D I



### **【売上・生産額】**

上期の売上・生産額実績は前年同期に比べると、31.03%が増加している。40.69%が横ばい、28.28%は減少と回答している。  
前回調査（増加 15.43%、横ばい 45.64%、減少 38.93%）に比べると、売上・生産額ともに増加傾向であり、減少幅は小さくなつた。  
下期の見込では、上期と比べ横ばいで推移するとの回答が多い。

### **【経常利益】**

上期実績：1年前と比べ、横ばいは4割強だが、3割強は減少との回答。  
下期見込：上期比で7割弱は横ばいだが、増加するとの回答は減少した。

### **【資金繰り】**

上期実績：1年前と比べ、不变が8割弱と回答。一方、悪化したとの回答が1割強あつた。  
下期見込：下期比でも8割弱は不变だが、悪化するとの回答が2割となり厳しい資金繰りの予想。

### **【採 算】**

上期実績：1年前と比べ、1割強は好転との回答だが、3割弱は悪化との回答があつた。  
下期見込：下期比では不变との回答が7割を超えるが好転するとの回答は減少した。

### **【仕入単価】**

上期実績：1年前と比べ、8割弱が上昇との回答。依然として上昇傾向との回答。  
下期見込：下期比では上昇との回答が6割弱と落ち着くが、下落したとの回答はほとんどなかつた。

### **【商品価格】**

上期実績：1年前と比べ、7割弱は上昇したとの回答。  
下期見込：下期比でも上昇が6割弱、不变が4割の予想となつた。

## 【注】

注：大幅に上昇＝販売・受注・生産額で概ね 20%以上の増加

やや上昇 = " 5%以上～20%未満の増加

ほぼ横ばい = " +−5%未満

やや下降 = " 5%以上～20%未満の減少

大幅に下降 = " 20%以上の減少

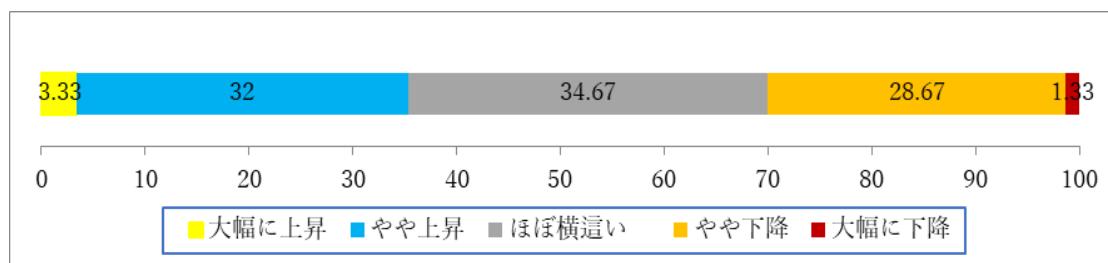
2 【自社の景気判断】の項目についても同様となります。

尚、季節変動がある場合は変動要因を除いた実勢での回答をいただいております。

### 【国内の景気判断について】

◎国内の景気について、先行きをどのように判断されますか。

- 下期（令和7年10月～令和8年3月）は、上期（令和7年4月～令和7年9月）に比べ



下期の国内景気の先行き判断は、上期に比べ大幅に上昇との割合は 3.33% だった。(製造業では 6.24%、非製造業では 2.54%)、やや上昇 32% (製造業 34.38%、非製造業 31.36%)、ほぼ横ばい 34.67% (製造業 34.38%、非製造業 34.75%)、やや下降 28.67% (製造業 25%、非製造業 29.66%)、大幅に下降 1.33% (製造業 0%、非製造業 1.69%) となり、DI は 5.33 (前回 4 月調査時 −38.26) となった。

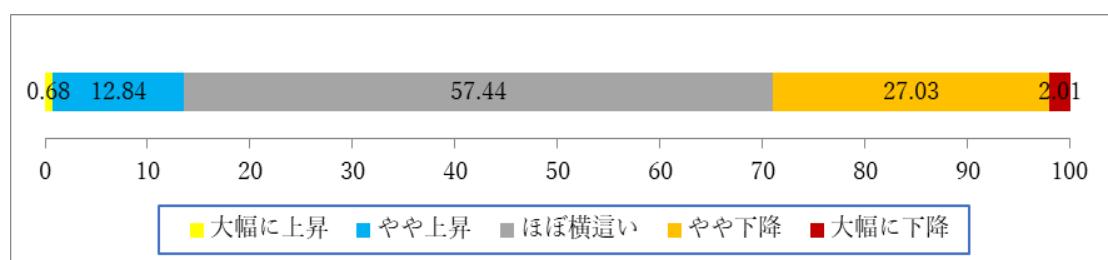
### 下期における上昇判断の要因

- 物価高騰により財布の紐が固いとの意見もある一方、新首相の経済対策に期待する声や円安によるインバウンドの増加も堅調であり、前回調査よりも上昇傾向の結果となつた。

### 2 【自社の景気判断】

◎自社の景気について、先行きをどのように判断されますか。

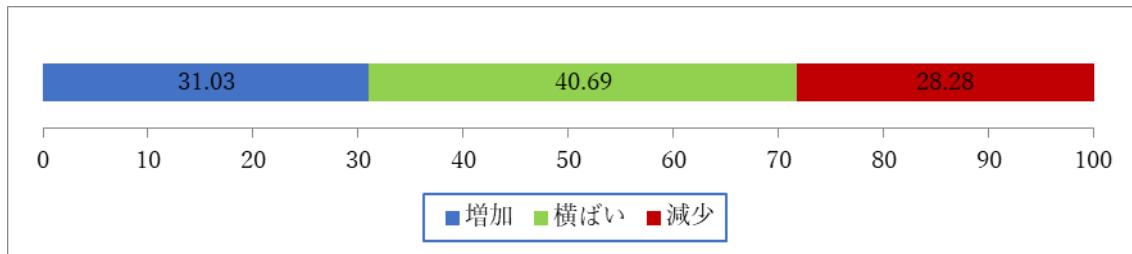
- 下期（令和7年10月～令和8年3月）は、上期（令和7年4月～令和7年9月）に比べ



下期の景気判断は上期に比べ、大幅に上昇との割合は 0.68% だった。(製造業 3.33%、非製造業 0%)。やや上昇は 12.84% (製造業 23.33%、非製造業 10.17%)、ほぼ横ばい 57.44% (製造業 53.33%、非製造業 58.47%)、やや下降が 27.03% (製造業 16.68%、非製造業 29.66%)、大幅に下降 2.01% (製造業 3.33%、非製造業 1.70%) となり、DI は −15.52 (前回 4 月調査時は −37.59) だった。

### 3 【売上・生産額】

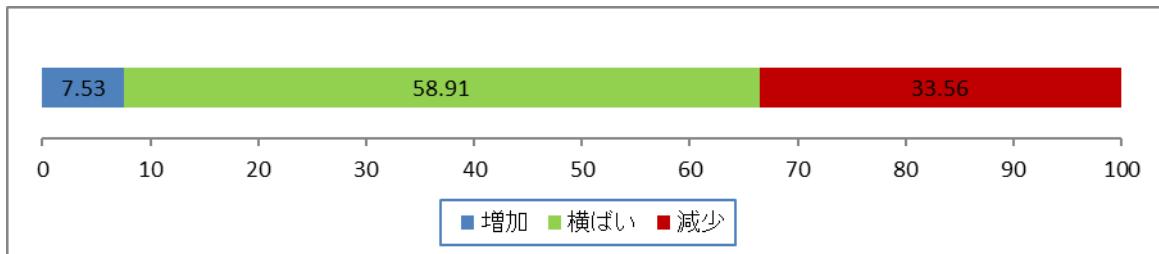
◎上期（令和7年4月～令和7年9月）は前年同期（令和6年4月～令和6年9月）に比べていかがでしたか。  
又、その要因はどのようなことでしたか。



- 増加** **31.03%** (製造業 33.33%、非製造業 30.43%)  
増加の要因として、値上げによる売上増加や需要の回復、大型物件の受注、などが挙げられた。
- 横ばい** **40.69%** (製造業 43.33%、非製造業 40%)
- 減少** **28.28%** (製造業 23.34%、非製造業 29.57%)  
減少の要因として、消費（個人含む）の低迷が主な理由に挙げられた。

上期の売上・生産額実績は前年同期に比べると、31.03%が増加している。40.69%が横ばい、28.28%は減少と回答している。  
上期の売上実績は、1年前と比べ増加、横ばいの合計が7割強である。

◎下期（令和7年10月～令和8年3月）の見込みは上期（令和7年4月～令和7年9月）に比べていかがですか、又その要因はどのようなことですか。

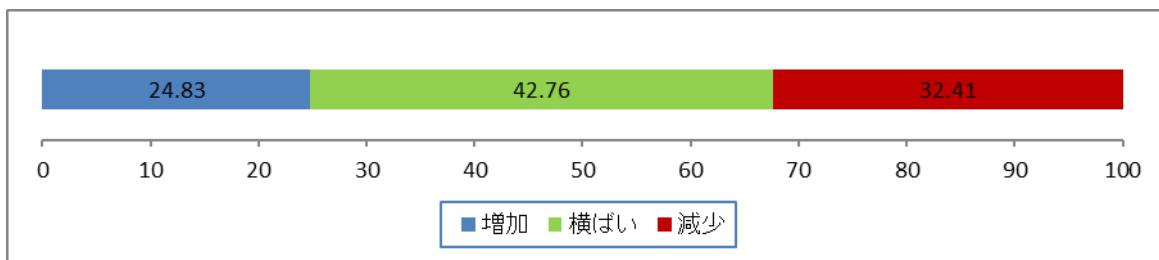


- 増加** **7.53%** (製造業 9.68%、非製造業 6.95%)  
増加の要因として、価格見直し（値上げ）による転嫁などが挙げられた。
- 横ばい** **58.91%** (製造業 70.97%、非製造業 55.65%)
- 減少** **33.56%** (製造業 19.35%、非製造業 37.4%)  
減少の要因として、受注の減少、消費低迷が挙げられた。

下期の見込みについては、上期に比べ7.53%が増加を見込んでいる。58.91%は横ばい、33.56%が減少を見込んでいる。  
下期の見込みでは、上期と比べ増加、横ばいの合計は7割弱となる予想となった。

#### 4 【経常利益】

- ◎ 上期（令和7年4月～令和7年9月）は前年同期（令和6年4月～令和6年9月）に比べていかがでしたか。又、その要因はどのようなことでしたか。



**増加 24.83%** (製造業 30%、非製造業 23.48%)

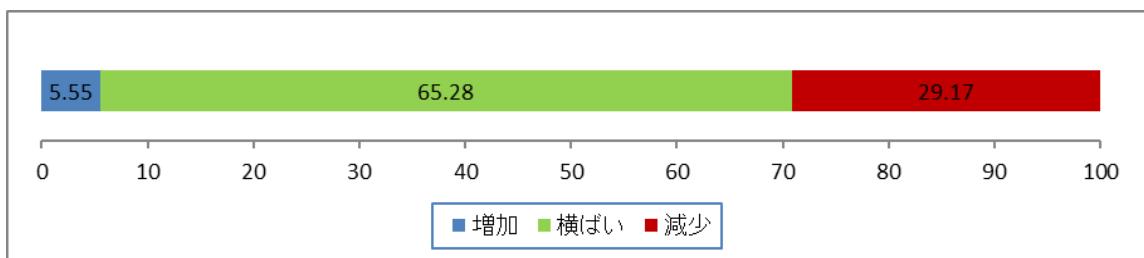
増加の要因として、価格の見直し（値上げ）による転嫁などが挙げられた。

**横ばい 42.76%** (製造業 30%、非製造業 46.09%)

**減少 32.41%** (製造業 40%、非製造業 30.43%)

減少の要因として、消費の低迷、仕入価格の高騰などが挙げられた。

- ◎ 下期（令和7年10月～令和8年3月）の見込みは上期（令和7年4月～令和7年9月）に比べていかがですか、又その要因はどのようなことですか。



**増加 5.55%** (製造業 19.35%、非製造業 1.77%)

増加の要因として、価格転嫁が出来た、価格見直しによるなどが挙げられた。

**横ばい 65.28%** (製造業 51.61%、非製造業 69.03%)

**減少 29.17%** (製造業 29.04%、非製造業 29.2%)

減少の要因として、仕入価格の高騰、人件費の上昇などが挙げられた。

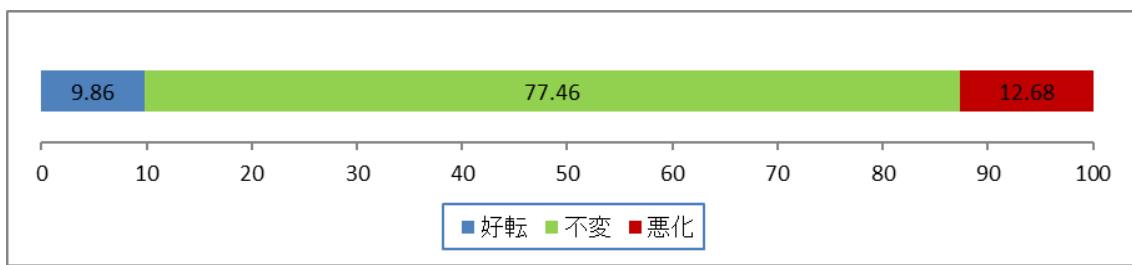
上期の経常利益は、前年同期より増加したとの回答は 24.83%、42.76%が横ばい、32.41%が減少と回答。

又、下期の見込みは上期に比べ増加すると見込んでいるのは 5.55%、65.28%が横ばい、29.17%は減少すると見込んでいる。

上期は前年同期より増加したとの回答が、下期では増加するとの回答は減少し、横ばいが増加し、依然として経常利益の確保が課題となっている。

## 5 【資金繰り】

- ◎ 上期（令和7年4月～令和7年9月）は前年同期（令和6年4月～令和6年9月）に比べていかがでしたか。

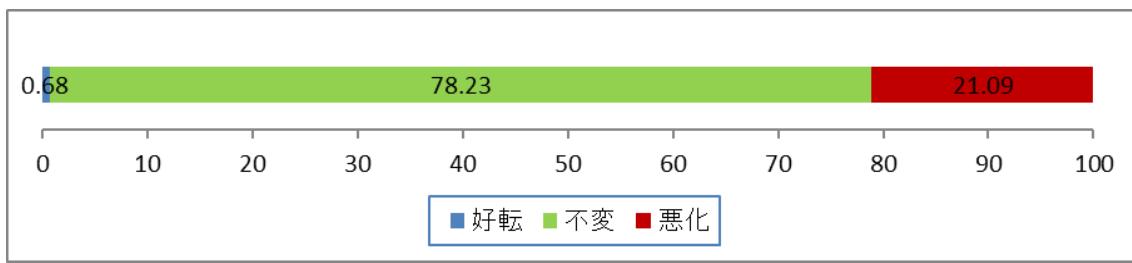


好転 **9.86%** (製造業 20.69%、非製造業 7.08%)

不变 **77.46%** (製造業 75.86%、非製造業 77.88%)

悪化 **12.68%** (製造業 3.45%、非製造業 15.04%)

- ◎ 下期（令和7年10月～令和8年3月）の見込みは上期（令和7年4月～令和7年9月）に比べていかがですか。



好転 **0.68%** (製造業 3.45%、非製造業 0%)

不变 **78.23%** (製造業 82.76%、非製造業 77.12%)

悪化 **21.09%** (製造業 13.79%、非製造業 22.88%)

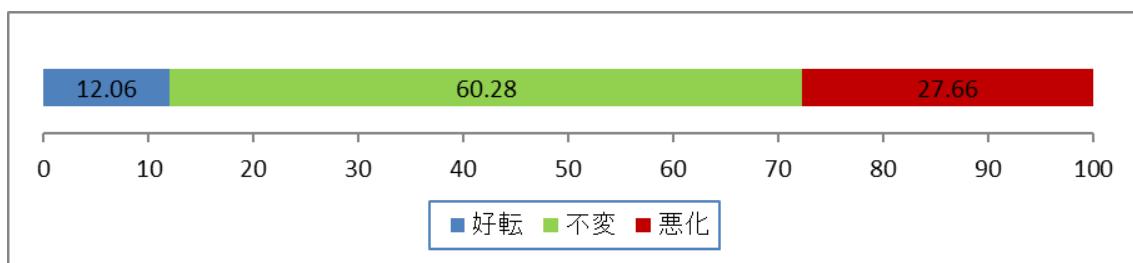
上期の資金繰りは、前年同期より好転したとの回答は 9.86%、77.46%が不变、12.68%が悪化と回答。

又、下期の見込みは上期に比べ好転すると見込んでいるのは 0.68%、78.23%は不变、21.09%は悪化すると見込んでいる。

資金繰りは、下期で好転するとの回答が減少し、悪化との回答が上期を上回り資金繰りに苦慮している結果となった。

## 6 【採 算】

- ◎ 上期（令和7年4月～令和7年9月）は前年同期（令和6年4月～令和6年9月）に比べていかがでしたか。

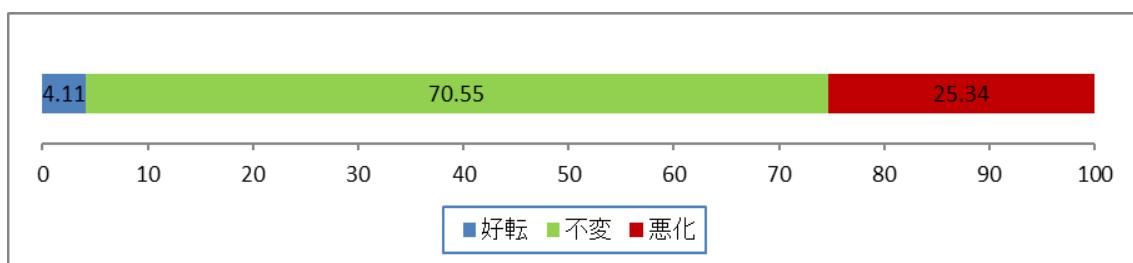


好転 **12.06%** (製造業 28.57%、非製造業 7.96%)

不变 **60.28%** (製造業 67.86%、非製造業 58.41%)

悪化 **27.66%** (製造業 3.57%、非製造業 33.63%)

- ◎ 下期（令和7年10月～令和8年3月）の見込みは上期（令和7年4月～令和7年9月）に比べていかがですか。



好転 **4.11%** (製造業 14.29%、非製造業 1.69%)

不变 **70.55%** (製造業 85.71%、非製造業 66.95%)

悪化 **25.34%** (製造業 0%、非製造業 31.36%)

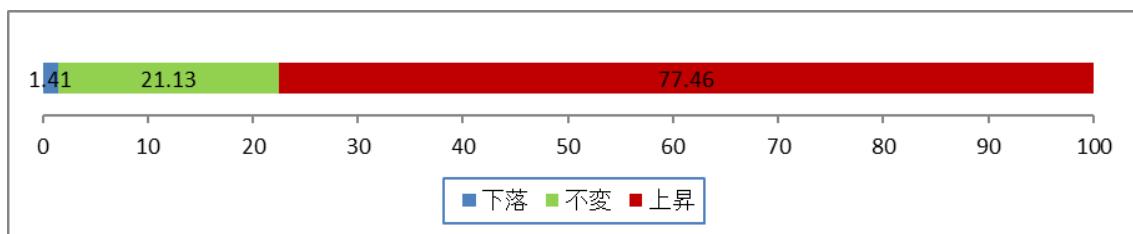
上期の採算は、前年同期より好転したとの回答は 12.06%、60.28%は不变、27.66%が悪化したとの回答をした。

又、下期の予想は上期に比べ好転すると見込んでいるのは 4.11%、70.55%は不变、25.34%が悪化すると見込んでいる。

採算は、下期で好転するとの回答が減少し、採算も厳しい結果となった。

## 7 【仕入単価】

- ◎ 上期（令和7年4月～令和7年9月）は前年同期（令和6年4月～令和6年9月）に比べていかがでしたか。

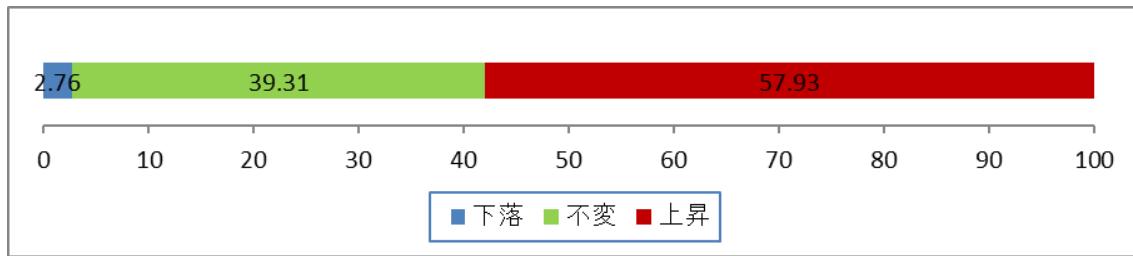


下落 **1.41%** (製造業 0%、非製造業 1.79%)

不変 **21.13%** (製造業 16.67%、非製造業 22.32%)

上昇 **77.46%** (製造業 83.33%、非製造業 75.89%)

- ◎ 下期（令和7年10月～令和8年3月）の見込みは上期（令和7年4月～令和7年9月）に比べていかがですか。



下落 **2.76%** (製造業 14.29%、非製造業 0%)

不変 **39.31%** (製造業 85.71%、非製造業 28.21%)

上昇 **57.93%** (製造業 0%、非製造業 71.79%)

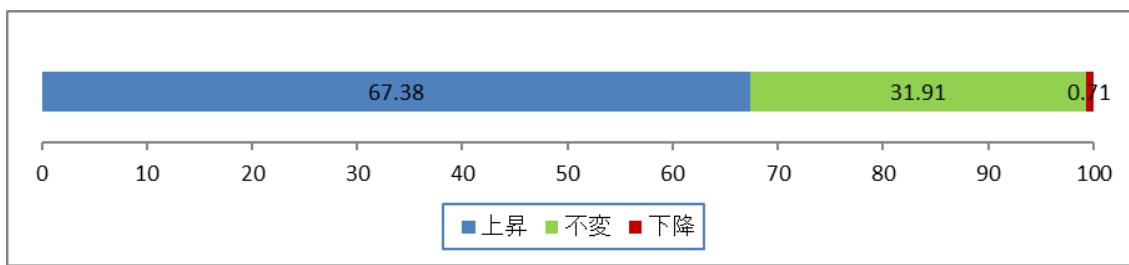
上期の仕入単価は、前年同期に比べて下落したとの回答は 1.41%、21.13%は不変、77.46%が上昇したとの回答をした。

又、下期の見込みは上期に比べ下落すると見込んでいるのは 2.76%で、39.31%は不変、57.93%は上昇と見込んでいる。

仕入単価は、依然として上昇傾向であり仕入価格の上昇分を価格転嫁出来ない難しさであるとの結果となった。

## 8 【商品価格】

- ◎ 上期（令和7年4月～令和7年9月）は前年同期（令和6年4月～令和6年9月）に比べていかがでしたか。

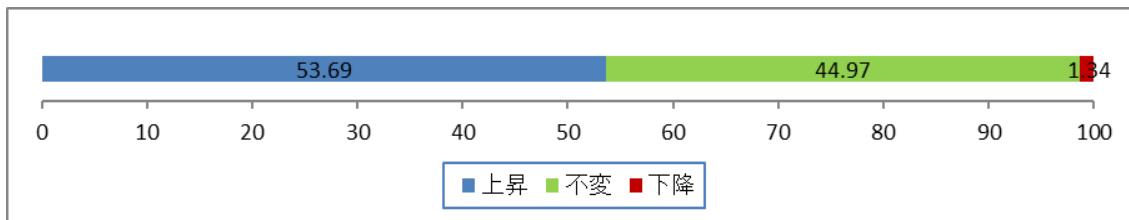


上昇 **67.38%** (製造業 57.14%、非製造業 69.91%)

不变 **31.91%** (製造業 42.86%、非製造業 29.20%)

下降 **0.71%** (製造業 0%、非製造業 0.89%)

- ◎ 下期（令和7年10月～令和8年3月）の見込みは上期（令和7年4月～令和7年9月）に比べていかがですか。



上昇 **53.69%** (製造業 48.39%、非製造業 55.08%)

不变 **44.97%** (製造業 48.39%、非製造業 44.07%)

下降 **1.34%** (製造業 3.22%、非製造業 0.85%)

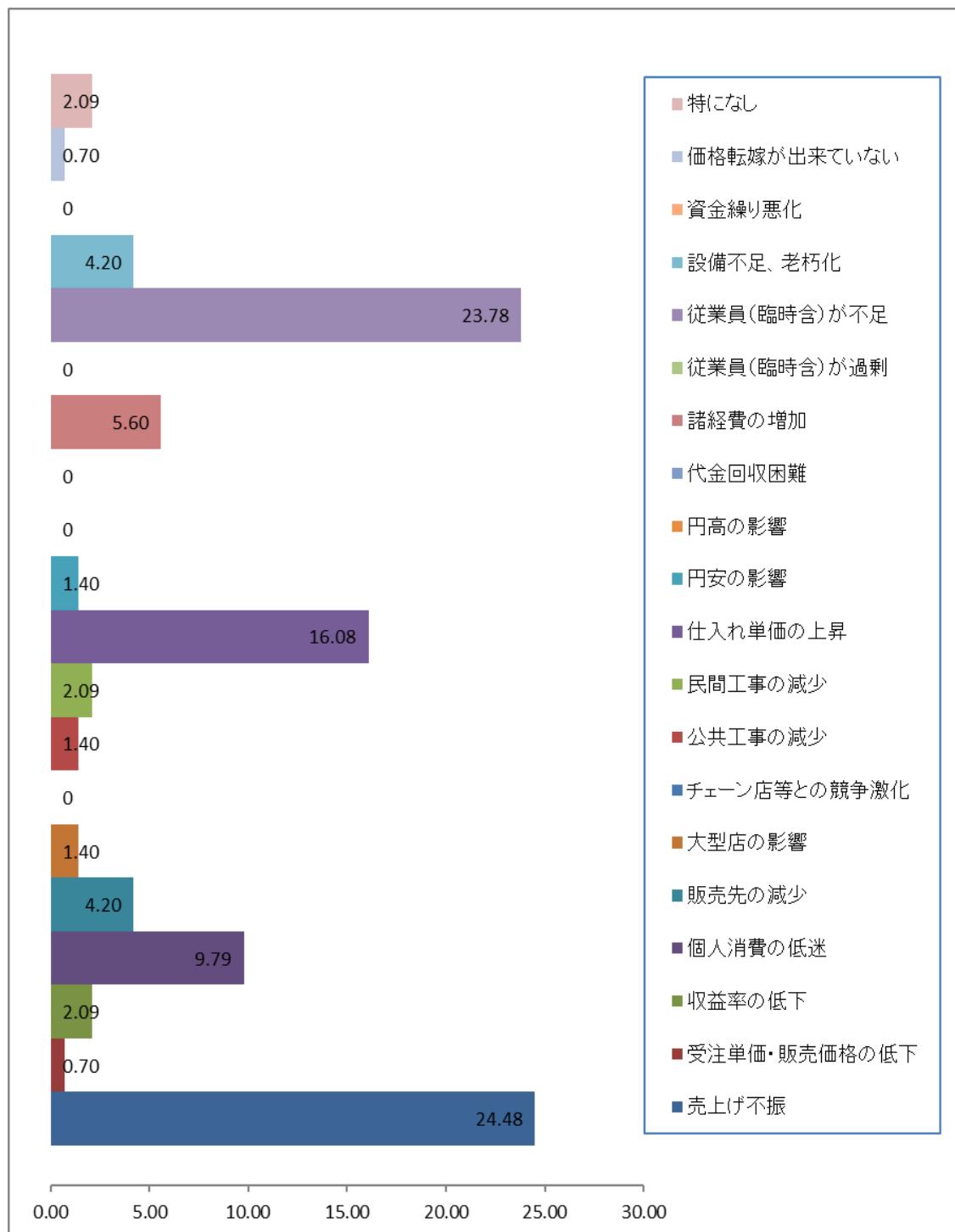
上期の商品価格は、前年同期より上昇したとの回答は 67.38%、31.91%がほぼ不変、0.71%は下降との回答をした。

下期の予測では、上期に比べ上昇が 53.69%、44.97%が不变、1.34%は下降と予測している。

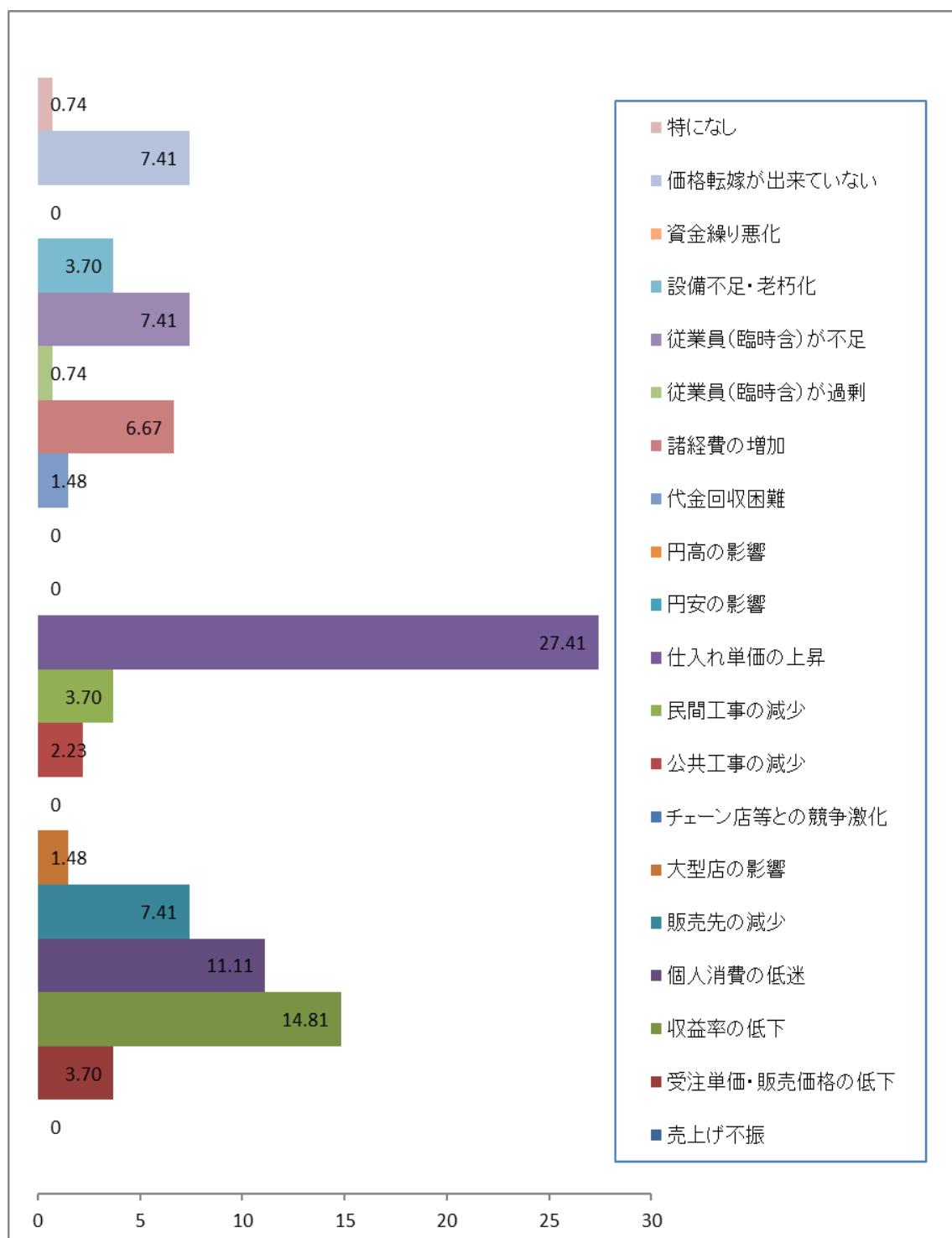
商品価格は、依然として上昇傾向との回答が多い。下降的回答もほとんどなく下期も上昇～不变が続くとの予想。

## 9 【問題点】

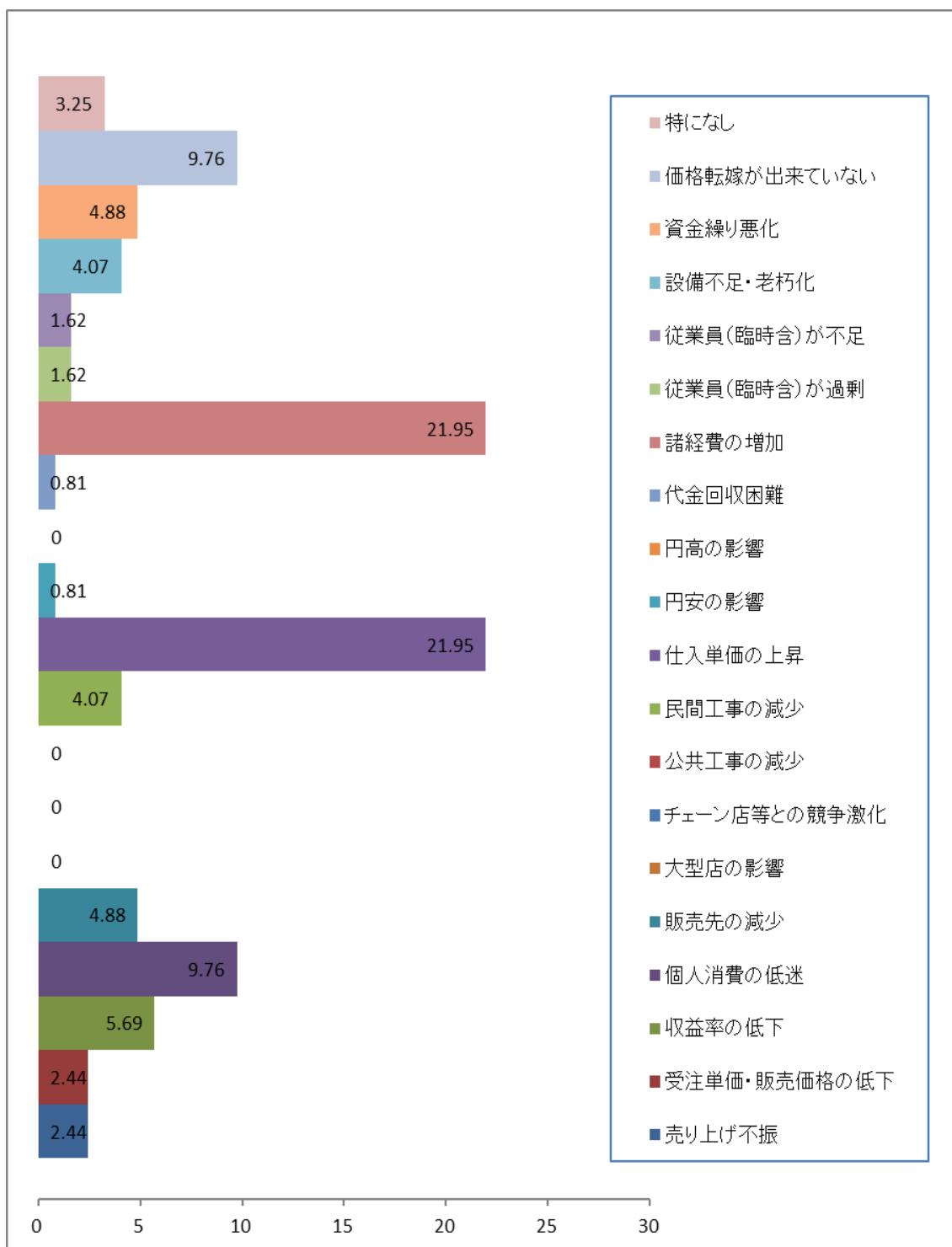
- ◎ 上期（令和7年4月～令和7年9月）における経営上の問題点は何ですか。（上位3つまで回答とし、1位の問題点）



◎ 上期（令和 7 年 4 月～令和 7 年 9 月）における経営上の問題点は何ですか。（上位 3 つまで回答とし、2 位の問題点）



◎上期（令和7年4月～令和7年9月）における経営上の問題点は何ですか。（上位3つまで回答とし、3位の問題点）

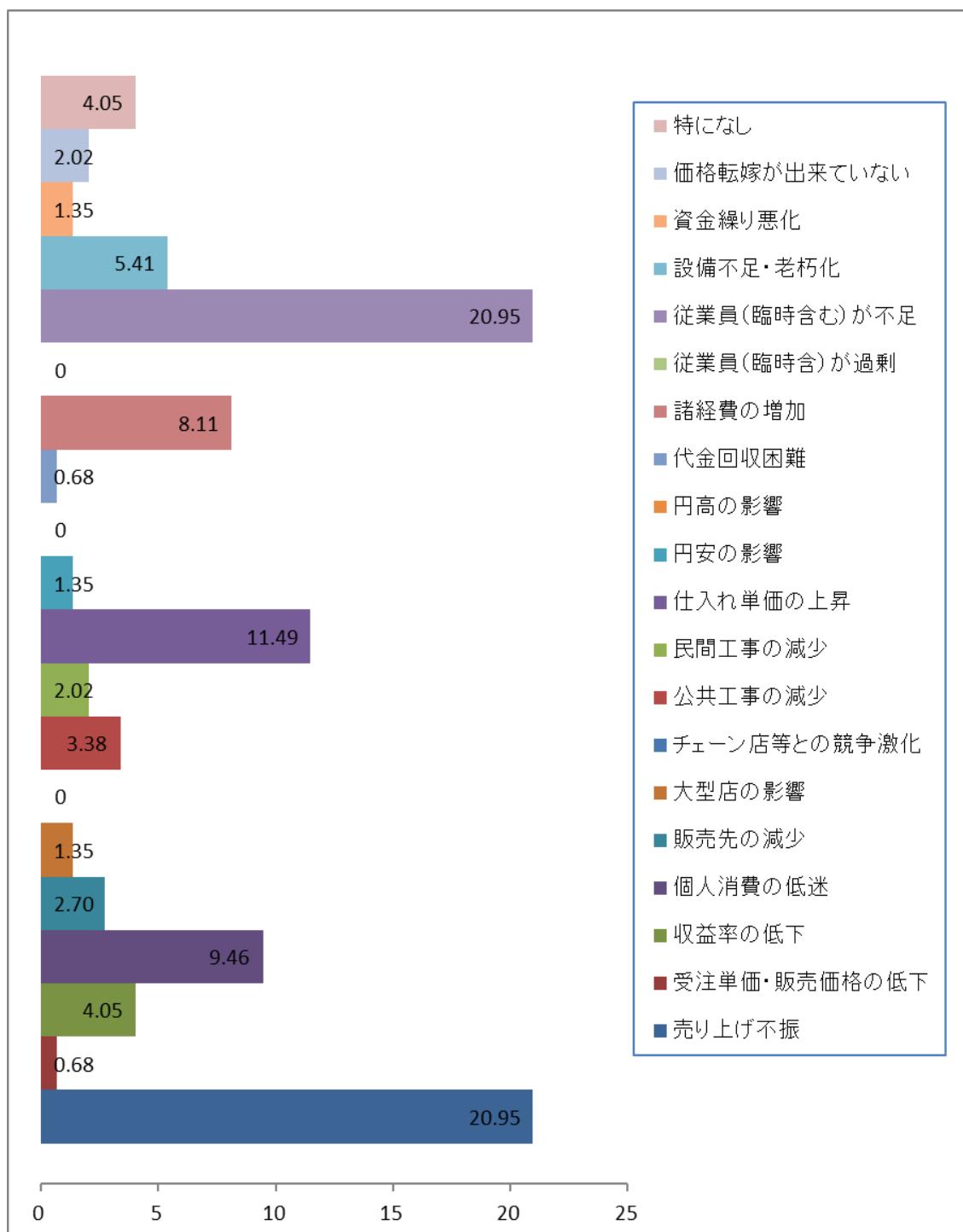


上期の経営上の問題点として最も多かったのは、「売上げ不振」で回答143事業所の内35事業所(24.48%)が1位の問題点として選択している。次いで「従業員(臨時含)が不足」(34事業所23.78%)、「仕入単価の上昇」(23事業所16.08%)が上位を占めた。

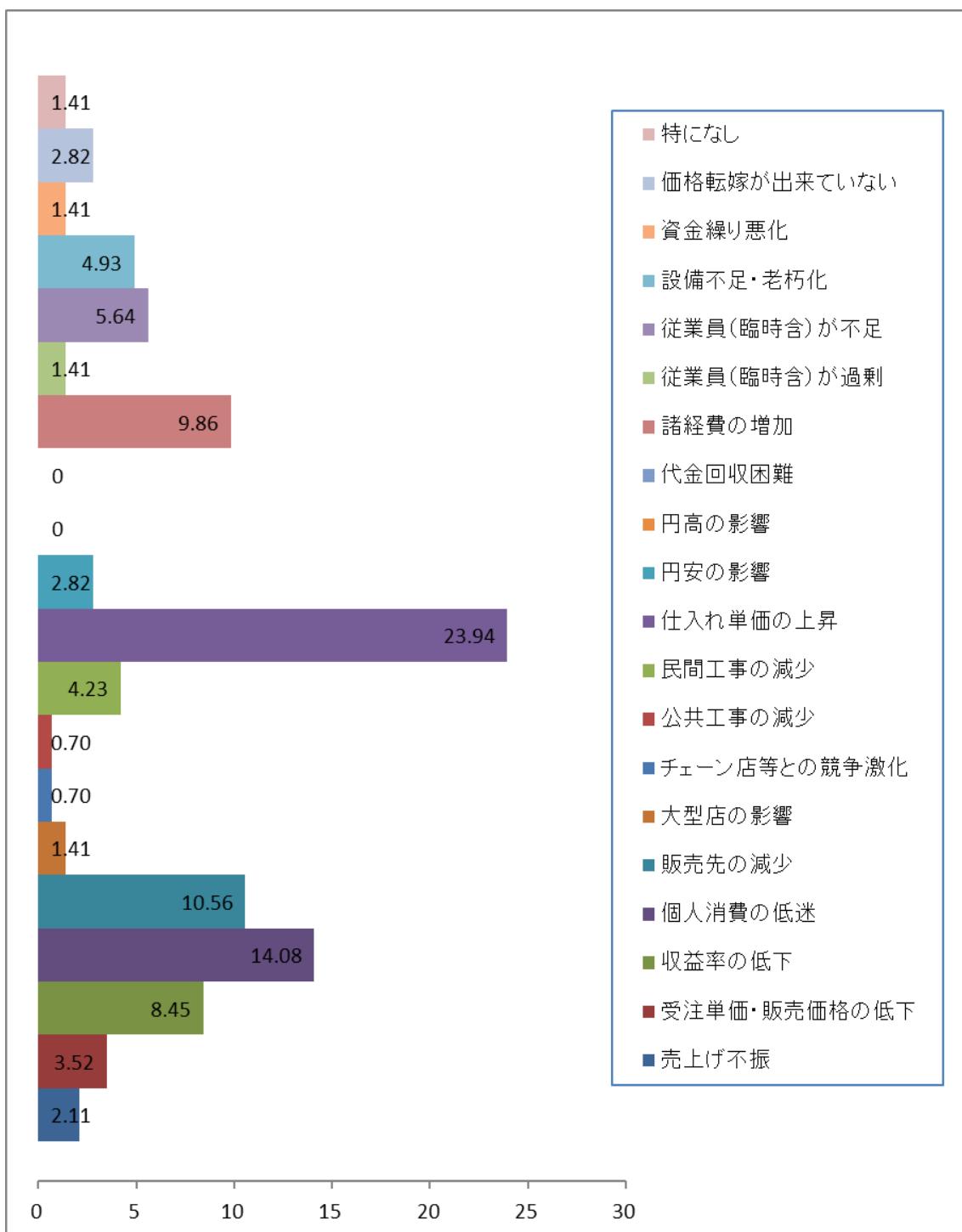
経営上の問題点として、2位で最も多かったのは、「仕入単価の上昇」で回答135事業所の内37事業所(27.41%)が選択された。

また、3位でも最も多かったのは、「仕入単価の上昇」と「諸経費の増加」で回答123事業所の内それぞれ27事業所(21.95%)が選択された。

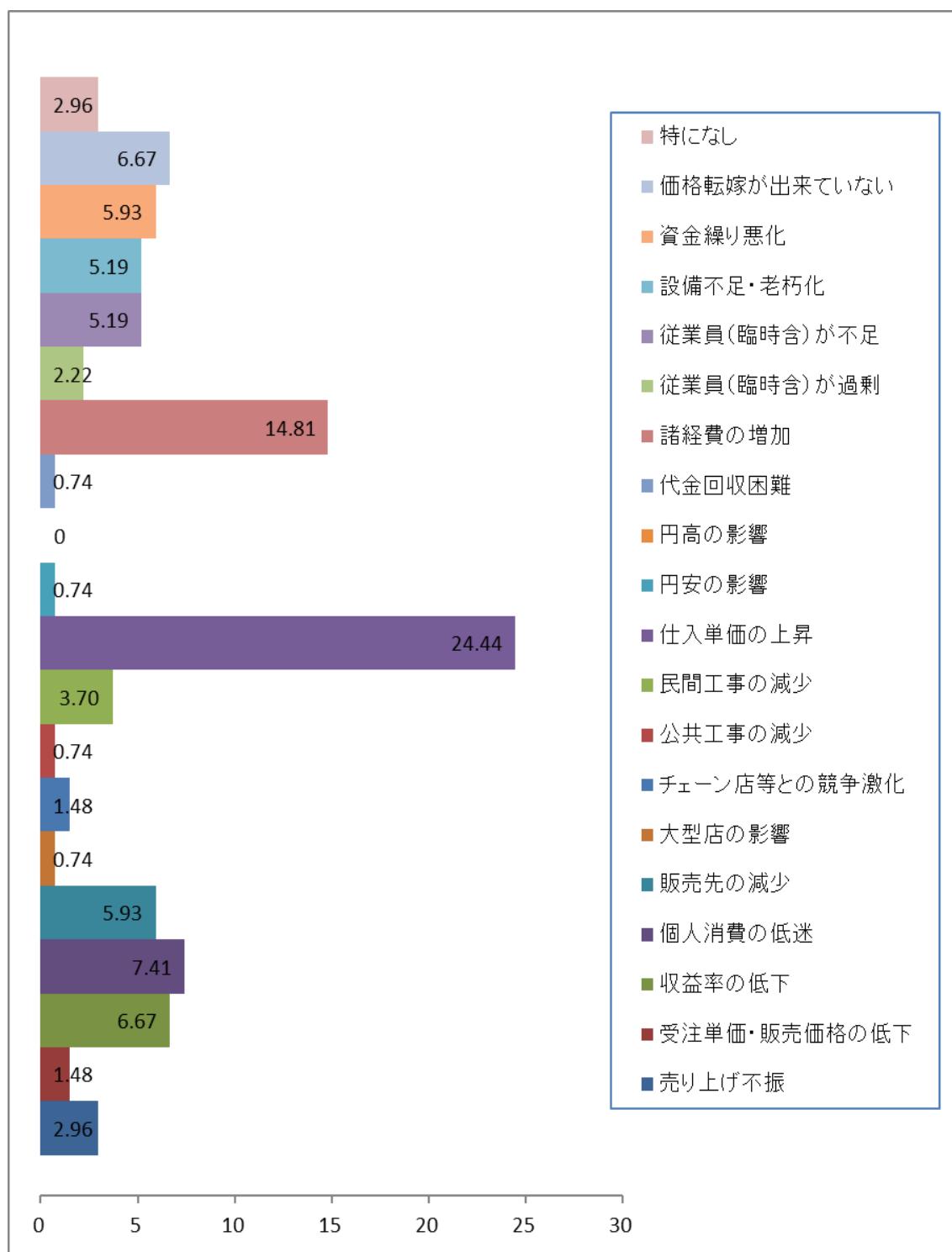
◎ 下期（令和 7 年 10 月～令和 8 年 3 月）における経営上の問題点は何ですか。（上位 3 つまで回答とし、1 位の問題点）



◎ 下期（令和 7 年 10 月～令和 8 年 3 月）における経営上の問題点は何ですか。（上位 3 つまで回答とし、2 位の問題点）



◎ 下期（令和 7 年 10 月～令和 8 年 3 月）における経営上の問題点は何ですか。（上位 3 つまで回答とし、3 位の問題点）

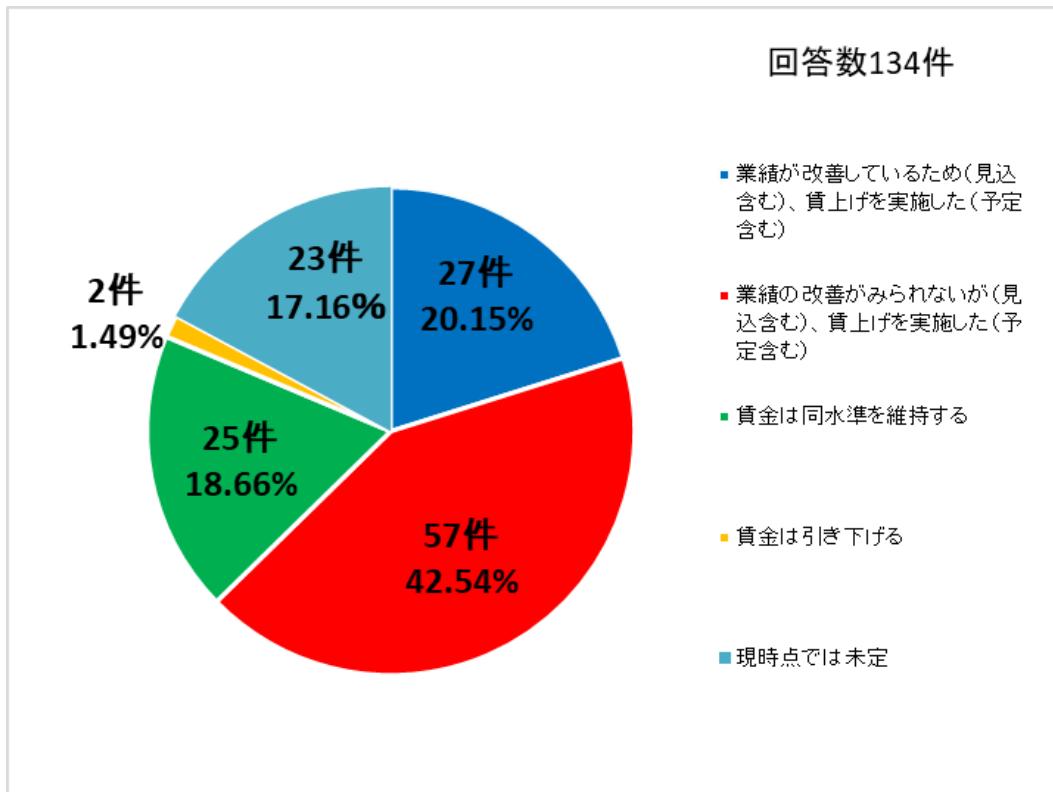


下期の経営上の問題点として最も多かったのは、「売り上げ不振」と「従業員（臨時含）が不足」で回答 148 事業所の内それぞれ 31 事業所（20.95%）が 1 位の問題点として選択している。次いで「仕入単価の上昇」（17 事業所 11.49%）が上位を占めた。

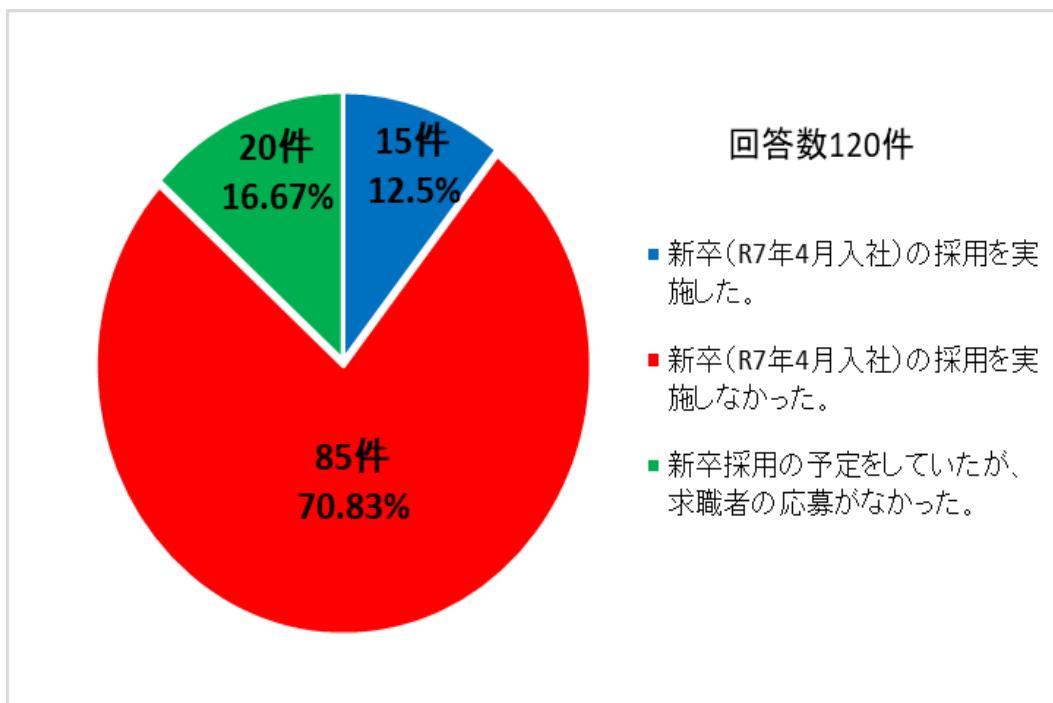
経営上の問題点として、2 位で最も多かったのは、回答 142 事業所の内「仕入単価の上昇」（34 事業所 23.94%）が選択された。

また、3 位で最も多かったのは、回答 135 事業所の内「仕入単価の上昇」（33 事業所 24.44%）が選択された。

## 10 【賃上げの状況（令和7年4月1日以降）について】



## 11 【新卒（令和7年4月入社）の採用状況について】



## 12 【その他】

### ★ 最近の業況や企業経営上でのご意見等

- ・伊万里市がんばろう応援券での売上促進を図る策よりも、人手不足を改善する策がほしい。（飲食業）
- ・仕入価格の上昇→値上げ→消費低迷→売上減少の悪循環で年々経営が難しくなっている。お客様に選ばれる努力がより必要。（飲食業）
- ・公共投資が少ないので、受注量が少ない。公共工事が売上の大部分を占めているため、公共投資の減少は非常につらい。（建設業）
- ・業界自体、厳しい状況で動いている（印刷業）
- ・原材料、ガス代等値上げがあったが、価格転嫁が困難。（陶磁器製造業）
- ・陶土の上昇により外注費の高騰、外注先の廃業が続いている。（陶磁器製造業）
- ・仕入価格、人件費の上昇分を価格転嫁しなければならない。今後も厳しい状況が続く。新商品、開拓先のアドバイスをお願いします。（印刷業）
- ・近年の最低賃金の大幅アップと金利の上昇時代に突入したので、これまで以上の価格転嫁が出来るかどうかが一番の重要課題。（食品加工・小売業）
- ・賃上げしても社会保険料等の税金も増加する。国には社会保険料や税金の制度見直しに取り組んでもらいたい。（製造業）
- ・キャッシュレス、バーコード決済が増えて現金が不足。手数料もかかるため小売店や小売は厳しくなると思う。（食品製造業・小売業）
- ・消費税減税やインボイスの廃止。物価上昇対策としての賃上げなど消費者目線での対応が必要。米価上昇も物価上昇も何もかもが高すぎて生活が不安なため、国内の景気や自社の景気も下降していると感じる。累進課税の復活を望んでいる。（小売業）
- ・インボイスが始まり、個人経営の取引先が廃業に踏み切る人が増えた。経理の手間も増えた。インボイスは日本のGDPを押し下げる要因の一つになった。（建設業）
- ・受注があっても諸経費の増加、人件費の高騰がある。人手不足対策は来年の新入社員へ期待（運輸業）
- ・売上は増加しているのに対し利益率が悪い。背景として仕入単価の高騰もあるが、提案見積より下を提示される。何とか生産工程を見直し、価格を合わせているが、薄利である。（製造業）